

## 令和7年度第5回経営協議会議事要録

日 時：令和7年11月20日（木）13：55～15：49

場 所：熊本大学事務局棟1階大会議室 ほか

出席者：小川 久雄、富澤 一仁、大谷 順、水元 豊文、黒沼 一郎、平井 俊範、  
秋池 玲子、Oussouby Sacko、笠原 慶久、木下 統晴、倉津 純一、後藤 芳一、  
竹内 信義、永田 佳子、原 幸代子、本松 賢

欠席者：赤木 由美

陪 席：宮尾 千加子、渡辺 啓子、佐藤 敏郎

### 議 題

#### 1. 宇城市三角町団地における土地・建物の売却について

議長から、宇城市三角町団地における土地・建物の売却について審議願いたい旨提案があった。  
次いで黒沼理事から、資料1に基づき、内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

### 報告連絡

#### 1. 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書について

富澤理事から、資料2-1・2-2に基づき、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書について説明があった。

#### 2. 令和7年度上半期資金運用報告について

黒沼理事から、資料3に基づき、令和7年度上半期資金運用について報告があった。

#### 3. 令和6事業年度財務諸表の承認について

議長から、令和6事業年度財務諸表について、8月29日付けで文部科学大臣から承認された旨報告があった。

次いで黒沼理事から、資料4-1・4-2に基づき、各財務指標の分析結果等について説明があった後、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

◇ 学生数及び経費の配分が変動していないにもかかわらず教育経費が減少している状況は、予算執行の点で疑問を感じる。また、熊本大学の特徴として、研究経費の割合が教育経費に比べ

て大きくなっているが、授業料の改定等により教育経費の割合を増やさなければ、教育の質の担保の面で懸念が生じるのではないか。

- ◆ 指摘のとおり、本学は従前より研究経費率が高い傾向にあるため、部局の執行について教育用として配分されたものの分析が必要だと考えている。
- ◇ 教員が実験のために購入した機械を研究室所属の学生が使用することもあるが、このような場合は、何の経費になるのか。
- ◆ 研究室で機械を購入した場合、学生が使用することもあるため、教育経費と考えることも可能だが、教育経費か研究経費のどちらかを選択しなければならないため、学生が使用するものであっても研究経費として計上されることになる。
- ◇ 教育と研究が不可分という考え方もあり、研究大学としての機能が向上すれば質の高い教育にもつながるため単純に教育経費率を上げればよいというものではない。

#### 4. その他

黒沼理事から、物価高騰緊急支援寄附募集キャンペーンについて説明があり、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

- ◇ 寄附者との関係性を構築する努力が重要である。また、寄附の多寡を授業料改定の条件にするのではなく、授業料を改定する前提で議論を進めるべきである。
- ◆ 昨年度の定例学長記者懇談会にて、現在の授業料でどこまで本学の財源がもつか見極めることと並行して、財政改善に向けた様々な努力をする旨発表している。本学では、これまでネーミングライツ、クラウドファンディング、土地活用といった様々な取り組みを行い、これらに加えて寄附金の募集を行っている。また、500万円以上の寄附者には、紺綏褒章が授与される。今後は、卒業生にも寄附をお願いしたい。

#### 意見交換

##### 1. 熊本大学病院の経営状況等について

平井病院長から、資料5に基づき、大学病院における今年度の経営状況等について説明があり、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

- ◇ 大学病院の経営に大変苦労されていると感じる。病床稼働率を上げることは当然であるが、そのためには患者を紹介してもらわなければならない。ある大学病院では、空き病床があるにもかかわらず、患者を紹介しても入院まで数か月待ちとなる旨聞き及んでいる。このような事態にならないよう、病床の見直しをすべきではないか。
- ◆ 患者紹介を増やすことについては、診療科長を介し各病院へ依頼しているところである。また、病床稼働率については、改善傾向にある。併せて、入院前支援や退院との連携を強化している。
- ◇ 他の大学病院も経営が苦しくなっているが、何が原因なのか。
- ◆ 病院の収益は、公定価格の診療報酬のみである。診療報酬の改定は2年に1回で、2年前も0.88%しか上昇していない。一方で、物価は毎年3%前後上昇を続けており、人件費も人

事院勧告により3%程度上がるなど、収入が支出に追いつかない状況である。また、大学病院の職員の給与が民間病院と比較して安いため、人材が大学病院から民間病院へ流れていく状況である。

- ◇ 入院するまで数か月待ちとなる原因是、何か。また、政府からの補助金について、診療報酬改定を待たずに配分される旨が発表されていることから、どの程度補助金を獲得できるかが重要ではないか。
- ◆ 本学大学病院の手術室の稼働率は全国有数であるため、手術室の不足は喫緊の課題である。政府から医療機器等への補助金が配分されることを把握しており、対応の準備を進めている。
- ◇ 診療科ごとの採算や改善点を見ることは、可能か。また、熊本大学病院の特徴や強みは、何か。
- ◆ 診療科ごとに粗利等を見ることは、可能である。手術件数を増やすことで、病院の収入資することができる。本学大学病院は、食道がんのロボット手術や低侵襲治療が日本でも有数のものであるため、この点は強みと言える。診療科の特徴については、ホームページにて公開している。
- ◇ 病床稼働率について、85.2%は令和7年度の目標値か。また、令和8年度以降もこの目標値を達成することで、財源が安定するのか。
- ◆ 病床稼働率については、年間で85%を超えると黒字になると言われており、令和7年度だけでなく、令和8年度以降も目標値としている。
- ◇ 昨年度まで目的積立金を取り崩してきたが、今後は非常に貴重な財源になると思うので、取り崩すことがないよう運営していただきたい。
- ◆ 文部科学省からは、赤字の場合は目的積立金から充当するよう指示されているため、今年度も同様の対応となるが、可能な限り目的積立金を残すよう努力している。

## 2. 令和7年人事院勧告等の概要等について

水元理事、黒沼理事及び事務部から、資料6に基づき、令和7年人事院勧告等の概要等について説明があり、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

- ◇ 運営費交付金の配分額の範囲で人事院勧告に対応するという制度において、47都道府県中33の大学病院が赤字になる状況は、制度として疑問を感じる。人が財産である大学において、赤字が続いている状況について問題点を整理し、しかるべき要望を上げるべきではないか。
- ◆ 貴重な意見に感謝する。

以上

○ 次回開催：令和8年1月15日（木）

<配布資料>

- |         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 資 料 1   | 宇城市三角町団地における土地・建物の売却について       |
| 資 料 2－1 | 国立大学法人ガバナンス・コード適合状況等の報告スケジュール  |
| 資 料 2－2 | 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告 |
| 資 料 3   | 令和7年度上半期資金運用報告 ほか              |
| 資 料 4－1 | 令和6事業年度財務諸表の承認について（通知）         |
| 資 料 4－2 | 財務分析（財務指標の推移）〈令和6事業年度〉         |
| 資 料 5   | 熊本大学病院の経営状況等について               |
| 資 料 6   | 令和7年度人事院勧告の概要等 ほか              |